

TDB 景気動向調査のテキストマイニング分析

企業の半数が「新型コロナウイルス」を景況感の判断理由に

～ 同一文章中に緊急事態宣言の影響や先行きを懸念する言葉が並ぶ ～

データソリューション企画部

杉原 翔太

【要約】

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が強まった2020年2月以降、TDB景気動向調査では企業から寄せられる景況感の判断理由のコメント数に増加傾向がみられた。そこで、5月調査に寄せられたコメントをテキストマイニングし分析したところ「新型コロナウイルス」のコメント率は52.3%となり、企業の半数以上が景況感の判断理由としていた。
2. 「新型コロナウイルス」と単語間で共起関係（同一文章中で共に用いられる関係）をみると、「営業」「自粛」「イベント」「中止」「延期」「外出」など緊急事態宣言の影響に関する単語が多くみられた一方、「先行き」「不透明」「終息」など先行きへの懸念を表す単語も多数あげられていた。

5月調査の自由回答における単語の出現回数（頻度の高い単語、上位20位まで）

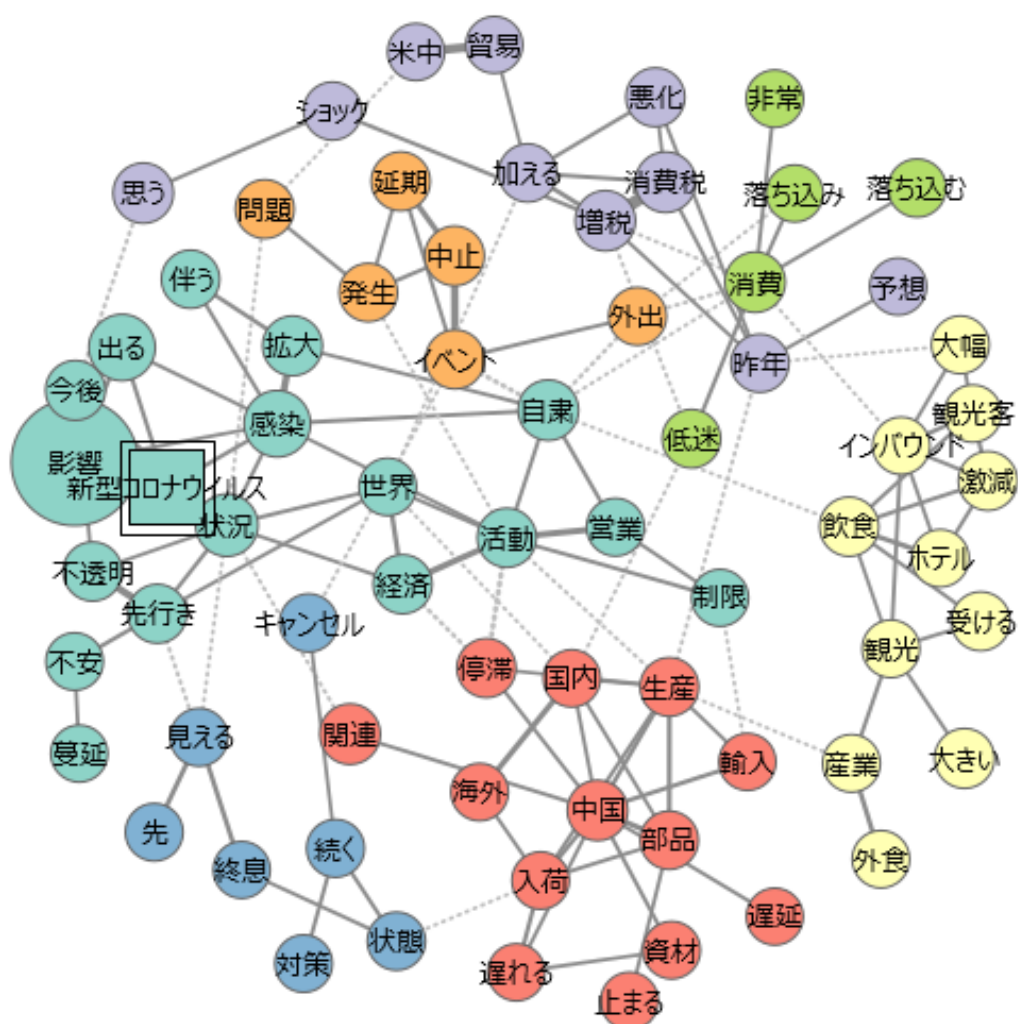
単語	出現回数	単語	出現回数
1 新型コロナウイルス	1,936	11 営業	238
2 影響	1,514	12 出る	205
3 受注	408	13 悪い	202
4 減少	407	14 休業	200
5 売上	379	15 関連	189
6 自粛	347	16 仕事	179
7 感染	313	17 緊急事態宣言	176
8 状況	294	18 需要	172
9 工事	273	19 活動	168
10 業界	267	20 販売	162

図1をみると、図の中央に「新型」「コロナ」「ウイルス」と大きく表示されている。ワードクラウドでは文字の大きさがその単語の登場頻度を表しており、企業からの自由回答は新型コロナウイルスの影響に関するコメントが多かったとわかる。具体的には半数以上となる52.3%が「新型コロナウイルス」に関連するコメントだった。業界別では『その他』を除く9業界で50%を超えおり、また都道府県別でも8県で6割以上、31都道府県で5割以上の企業から「新型コロナウイルス」に関するコメントがあり、業界、地域問わず幅広く影響がでていることがうかがえる。

2. 緊急事態宣言の影響や先行きへの懸念に関する単語が同一文章中に並ぶ

どのような単語と単語が同一文章中に用いられているか（共起関係）を確認する図として、共起ネットワーク図が知られている。図2は、「新型コロナウイルス」と高い頻度で共起される各単語間の共起関係を表している。

図2 共起ネットワーク図（2020年5月）



「新型コロナウイルス」と共起される頻度が高い単語として、「営業」「自粛」「イベント」「中止」「延期」「外出」など、緊急事態宣言下での活動自粛、イベント中止に関連する単語が多くみられた。加えて、「消費」「落ち込み」「低迷」とあるように個人消費の落ち込みや、「部品」「資材」「遅延」「生産」など、建設資材や部品の入荷の遅れによる生産面への影響を指摘する単語も頻出している。その一方、「消費税」「増税」とあるように2019年10月の消費税率引き上げによる影響や、「先行き」「不透明」「終息」のように先行きを懸念する様子など、過去から未来における景況感への影響に関する単語も、「新型コロナウイルス」と同一文章中に多く並んでいる。

まとめ

5月25日に政府は緊急事態宣言を解除したものの、今後も第2波、第3波など新型コロナウイルスの影響が懸念される。景況感の判断理由に「新型コロナウイルス」をあげている企業では、緊急事態宣言の影響による活動自粛やイベント中止、個人消費の落ち込み、また入荷の遅れによる生産面への影響に関する単語が同一文章中に多くみられた。一方で、「先行き」「不透明」「終息」とあるように、先行きを懸念する声も多数あげられている。社会・経済が再び動き始めているなか、将来への不安を緩和させる施策・対応が今後必要となろう。

【 問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

杉原 翔太

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます（スマートフォン等をお使いの方はQRコードからも可能です）。
<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。